

聖学院の表現教育 ～キャリア教育と関連付けながら～

●2020年度大学入試が変わります

2020年度入試では大幅な改革が行われ、センター試験の廃止、新たな評価テストの導入が予定されています。新学力評価テストでは「思考力・判断力・表現力」を評価するために、合教科・総合型の出題も予定されており、これまで以上に教科のカテゴリーを超えた総合的な知識と思考・判断・表現力が求められます。

また、各大学の個別選別では小論文・プレゼンテーション・グループディスカッション・面接・コンテストでの成果など、学生の「主体性・多様性・協働性」など、人間性を評価する形式の入試が増えることが予想されています。

●現在の大学入試でも必要とされている「思考・判断・表現力」と「強い志望動機」

2020年度以降はもちろんですが、現在の大学入試でも「思考・判断・表現力」が求められる出題が増加しています。また、社会の複雑化にともない、学部・学科の種類の複雑化や教学内容（アクティブラーニング型の授業など）の多様化も進んでいることから、学生の「学びへのモチベーション」や「主体性・協働性」がとても必要となってきています。そこで、「表現教育」と「キャリア教育」を掛け合わせることで、汎用性の高い思考スキルと資質・態度を育成していきます。

●「志望理由書」を表現教育の一つの目標とする

上記より「表現教育」と「キャリア教育」を掛け合わせ、「志望理由書」を一つの大きな目標とする（高Ⅱ・3学期）。その志望理由書を発信するためには、「社会を知り読み解く・大学を知る」と「主体的に思考・判断・表現する」といった大きな2つの柱が必要となります。志望理由書というと推薦AO入試対策と思われるがちですが、そうではありません。一般入試を志望する生徒にとっても「受験勉強の大きな後押し」となり「大学入学後のスタートダッシュの成功」にもつながり、就職活動等にも大きな影響を及ぼします。生徒にとって、将来常に問われることとなる「志望理由」を考えさせる最初の機会としていきます。

また、志望理由書にはルーブリック（別表：表現力育成プログラムを参照）を設定し、担任を中心に多くの教員が指導にあたっていきます。高Ⅱ・3学期段階での志望理由書をもとに、推薦AO志望者に対する個別の指導も進めていきます。

●「志望理由書」に向けた2つの教育の柱 ～その1「社会を知り読み解く・大学を知る」～

志望理由書を発信するためには、「社会を知り読み解く・大学を知る」と「主体的に思考・判断・表現する」という2つの教育の柱が必要となります。

「社会を知り読み解く・大学を知る」では、従来本校で行ってきた「中3糸魚川農村体験」「高Ⅱ沖縄平和学習」といった宿泊体験学習と強く関連付けて、社会に対して幅広い視野を持ち、社会の問題点を把握し、解決する視点を養っていきます。また、7月にはfromページ主催の「夢ナビライブ@東京ビッグサイト」へ高Ⅰ・高Ⅱ全員で参加し、大学や学部学科を知る機会としていきます。11月には朝日新聞・ベネッセ共催の「語彙読解力検定」へ中3・高Ⅰ・高Ⅱ全員で取組み、新聞語彙（経済・国際・法政治・社会・文化・科学技術・環境・防災・医療・健康・生活など）を中心に社会的な背景知識を体系的に増やし、社会を読み解く力を育成していきます。